人文科学とコンピュータ　25－6
（1995．1．27）

ニューミュージックに見る恋愛風景

久保正敏

国立民族学博物館・第五研究部

要旨

1965年から1989年までの間に発表されたニューミュージク系の曲300余を対象に、歌詞をデータ入力するとともに、歌詞から曲を分類する項目を設定し、それに基づいた値のデータベースを作成した。その概略的な分析結果を報告する。25年間を５年毎の５つの期間に区切って、分類項目値の変化を見ると、以下のようないくつかの特徴を指摘できる。

●1960年代には見られた「若者モノ」は1975年以降減少している。

●代わって「恋愛モノ」が台頭し、最近では９割近くを占める。

●これに呼応して、歌詞に友人や肉親など恋愛対象以外の人物が登場する曲は急減する。

●歌詞の時間的方向性を見ると、第１期は未来指向、第２、３、４期は過去指向、第５期は再び未来指向が優勢となる。

こうした変化と、経済・社会的変化、世相・風俗、ミュージシャンの世代や相互の影響、海外の洋楽からの影響、と言った諸現象との相関についての詳しい分析は、今後の課題としたい。

Scenery of Love Affairs Sung in Japanese "New-Music"

Masatoshi KUBO

National Museum of Ethnology
Senri Expo Park, Suita, Osaka, 565 JAPAN

ABSTRACT

This paper reports a preliminary analysis of the text of Japanese songs categorized as "New-Music", made during 1965 and 1989. From a unique analytical viewpoint, several attributes of each song are evaluated, and organized as a personal-computer-based database. By analyzing this database, the following several changes of songs during the period can be pointed out:

*The number of songs dealing with love affairs increses with the years;

*In the periods of 1965-1969 and 1985-1989, the future-oriented songs are dominant over past-oriented ones, which may reflect the change of Japanese economic conditions.

1．はじめに

以前、筆者は歌謡曲を旅の観点から分析したが[1)]、フォークソングやニューミュージックなど若年齢層に愛好される歌の分析をオミットしていた。今回、これらの歌の分析を試みるために、ヒット曲全集から、1965年から1989年の間に発表された302曲を選び、ＯＣＲ（光学文字読み取り機）で歌詞を読みとってパソコンに入力するとともに、タイプ分けのために設定したいくつかの分類項の値を各曲に与えてデータベースを作成した。これに基づいた本格的な分析はこれからであるが、本稿では分析の視点をつかむための概略を紹介したい。

ソースとした曲集はドレミ楽譜出版社『ニューミュージック　ベスト222』及び全音楽譜出版社『フォーク＆ニューミュージック決定版』である。もちろん、ここで取り上げられた曲がヒット曲だとする根拠は確たるものではないが、基本集合と考えることにする。また、1975年頃から登場した「ニューミュージック」という呼び方は、1980年代中頃からはポップス系と区別しにくくなっているが[2)]、本稿で参照した曲集に従い、ロックやポップスも含めたものと考えておく。ただし、曲集には、選者の嗜好によるためか、最近のロックに見られるような社会派的な曲はあまり含まれていないようである。今後は、悉皆的なデータ収集を行う必要があると考えている。ちなみに、『オリコン年鑑』では、日本製のヒット曲を、フォーク＆ロック、ポップス、演歌の３種に分類しており、シンガー・ソングライター系のものをフォーク＆ロック、作詞家・作曲家・歌手の分業によるものをポップスと一応見なしているが、結局のところは、発売元の分類に従っているとのことである。

2．歌詞による分類

データベース化のために設定した分類項は、歌詞の話者、１人称代名詞、２人称代名詞、その他の登場人物、歌詞内の英単語数、モチーフ、恋愛フェーズ、話者の感情、破局のパターン、歌詞の時間的方向性、季節、などである。時間的方向性とは、歌詞の内容が過去に向かうのか未来に向かうのか、といった観点で、筆者が独自に判定したものである。モチーフの値域としては表１に示すものを設定し、値が「恋愛」の場合には、恋愛の進行過程を「恋愛フェーズ」項で表２に示すようにさらに細分してみた。

モチーフ
恋愛
若者・希望の旅立ち
若者・悲壮決別の旅立
若者・苦悩悲哀放浪
若者・友情激励慰め
若者・多感な青春
肉親への思い
女性賛美
反戦
世直し
悲観
コミカル
郷愁
若い日の思い出
若い日への悔恨
旅情
失意
その他

表１　ニューミュージックのモチーフ

恋愛フェーズ
人恋しさ
届かぬ思い
恋の始まり
恋愛賛歌
日常的愛情風景
やり直し
愛する決意
包容・誘導
逃避的愛
刹那的愛
相手の心不明
傷付け合う愛
別れの予感
別れの瞬間
別れの直後
別れと見送り
別れと再出発
初な恋思い出す
後日思い出す
再生を願う
再会
その他

表２　恋愛フェーズ

すなわち、
特定の相手がいない「人恋しさ」の状態（例えば「秋でもないのに」「あなた」）から、
片思いなどの「届かぬ思い」（「待つわ」「恋の予感」「大きなたまねぎの下で」など）を経て、
「恋の始まり」（「シルエット・ロマンス」「メイン・テーマ」「シーズン・イン・ザ・サン」）に至り、
恋愛を謳歌する「恋愛賛歌」（「白いギター」「RIDE ON TIME」「世界でいちばん熱い夏」）の段階に入る。
恋愛途中には、
「包容・誘導」（「愛を止めないで」「守ってあげたい」）
「逃避的愛」（「黒の舟唄」「闇夜の国から」「ドラマティック・レイン」）
「刹那的愛」（「きみの朝」「みんなのうた」）
「傷つけ合う愛」（「青春時代」）
など色々な愛の形がある。

また、心が一度離れた後「やり直し」を決意したり（「人生の空から」「ガラスのPALMTREE」）、
過去と決別して現在の恋人を「愛する決意」を表明する歌（「アメリカン・フィーリング」「安奈」）
もある。しかし、人の心を繋ぎ止めることは難しく、
「別れの予感」（「心もよう」「追伸」「君は天然色」）を経て、
「別れの瞬間」「別れの直後」（「順子」「恋人よ」「愛はかげろう」「涙のリクエスト」）
と言った破局を迎える。ただし、必ずしも皆が愁嘆場を演じる訳ではなく、
鷹揚に相手の去る姿を「見送る」者あれば（「フレンド」「「夢をあきらめないで」）、
心機一転「再出発」（「サボテンの花」「明日に向かって走れ」「シングル・アゲイン」）
を健気に誓う者もある。時間がたてば余裕をもって別れを振り返る
「後日思い出す」歌（「想い出の渚」「１２月の雨」「ノーサイド」）
がある一方で、未練たらたらと「再生を願う」もの（「想い出まくら」「迷い道」「星空のディスタンス」）、
またかつての恋人とゆくりなくも「再会」する場面を歌う歌もある（「SWEET MEMORIES」「駅」）。

以上のように、恋の様々な段階における心の機微を描く歌は数多く、ニューミュージックに占める「恋愛」モノの比率は大きい。これらの多くは、夏に恋が生まれて秋に別れ冬に思い出す、と言う決まり事から逸脱しない。表３に、以上の分類値を与えたデータベースの内容の一部を示しておく。

３．全体の傾向

しかし、モチーフのすべてが恋愛と言うわけではなく、友情や若い日々を懐古する歌もある。そこで、ニューミュージックの時間的な変遷を捉えるために、次のような５年毎の区間、1965年－1969年の第１期、1970年－1974年の第２期、1975年－1979年の第３期、1980年－1984年の第４期、1985年－1989年の第５期に区切り、発表年によって曲を各期間に割り振ってマクロな傾向を見ることにする。表４は、ニューミュージック全体の傾向を見たもので、数字は分類に対応する曲数、カッコ内は各期間の総曲数を母数とする比率を％で示したものである。

まず目につくのは、英語の歌詞を含んだ曲、恋愛をモチーフとする曲、さらに、映画・テレビドラマ主題歌やコマーシャル・ソングと言ったタイアップ・ソングが、年を追う毎に増加していることである。モチーフの点から見れば、第１期のフォーク・ソングにかなり見られた「若者」モノは、「ニューミュージック」という呼称が登場した第２期以降減少し、「恋愛」モノが主流を占めて第４、５期には９割近くに達しており、ニューミュージックのほとんどが恋愛をテーマとする状況である。

ID	題名	話者	人称1	人称2	人物	英数	モチーフ	恋段階	補足情報	時間方向
196501	想い出のグリーン・グラス	不明	私	無	パパ、ママ		郷愁			過去
196502	涙くんさよなら	男	僕				恋愛	恋の始まり		未来
196601	旅人よ	第3者		君	旅人		若者・希望の旅立ち			未来
196602	バラが咲いた	男	僕		バラ		その他			
196603	四つ葉のクローバー	不明		あなた	愛した人		恋愛	初な恋思い出す	初恋、夏の日	過去
196604	若者たち	第3者		君	若者		若者・希望の旅立ち			未来
196631	お嫁においで	男	僕	君			恋愛	恋愛賛歌	海、船、波	
196632	君といつまでも	男	僕	君			恋愛	恋愛賛歌	夕闇	
196633	銀色の道	第3者			二人		若者・希望の旅立ち			未来
196634	空に星があるように	男	僕		一人		恋愛	別れの直後	淡々、恋の終わり	過去
196635	想い出の渚	男	僕	君			恋愛	後日思い出す	夏の思い出、慕情	過去
196701	愛する人に歌わせないで	女			ママ、パパ、ぼうや		反戦			
196702	帰って来たヨッパライ	男	おら		神様		コミカル			
196703	今日の日はさようなら	不明			友達		若者・その他		友情	未来
196704	この広い野原いっぱい	女	私	あなた			恋愛	恋愛賛歌	離れている恋人への訴え	
196705	世界は二人のために	不明	私	あなた			恋愛	恋愛賛歌		
196706	花と小父さん	男	僕		花		その他			
196731	貴様と俺	男	俺	貴様			若者・友情激励慰め		ラグビー仲間への励まし	
196801	主婦のブルース	女	私				その他		主婦が一生を回顧	過去
196802	風	第3者			人		若者・悲壮決別の旅立		失恋等からの旅立ち	過去＋未来
196803	山谷ブルース	男	俺		俺達		世直し		労働歌	未来
196804	受験生ブルース	男	僕				コミカル		受験	
196805	白いブランコ	男	僕	君			恋愛	初な恋思い出す	幼い恋	過去
196806	青年は荒野をめざす	第3者			青年、友、皆、恋人		若者・悲壮決別の旅立			未来
196807	小さなスナック	男	僕	君			恋愛	初な恋思い出す	初な恋	過去
196808	小さな日記	女	私		彼		恋愛	後日思い出す	山で遭難した恋人追慕	過去
196809	チューリップのアップリケ	女	うち		父ちゃん、母ちゃん		世直し			
196810	時には母のない子のように	女			母		若者・その他		一人立ちへの憧れ	未来
196811	友よ	不明			友		若者・友情激励慰め		連帯	未来
196831	あの時君は若かった	男	僕	君			恋愛	再生を願う	幼い恋	
196832	亜麻色の髪の乙女	第3者			乙女、彼		恋愛	恋愛賛歌	女側から	現在＋未来
196901	或る日突然	女	私		二人		恋愛	恋の始まり	友達から恋人へ	現在＋未来
196902	帰りたい帰れない	男	僕		母さん		郷愁		帰れない事情	
196903	悲しくてやりきれない	男					若者・苦悩悲哀放浪			
196904	禁じられた恋	女	私	あなた			恋愛	恋愛賛歌	妨害にもめげない	現在
196905	昭和ブルース	男	俺	あなた	お母さん、可愛い人		若者・悲壮決別の旅立			未来
196906	空よ	男			あの娘		恋愛	初な恋思い出す	初恋	過去
196907	どうにかなるさ	男	俺		人		若者・希望の旅立ち		放浪、気楽、無責任	未来
196908	遠い世界に	男	僕		僕達		若者・友情激励慰め		連帯、世直し	未来
196909	ひとり寝の子守唄	不明			お前		恋愛	人恋しさ	孤独受け入れ、達観	
196910	フランシーヌの場合	女	私		フランシーヌ		若者・その他		学生運動・叙事的	過去
196911	別れのサンバ	女	私	あなた			恋愛	別れの直後	未練	過去
197001	赤い花白い花	不明			あの人、愛しい人		恋愛	恋愛賛歌	淡い恋	現在
197002	秋でもないのに	女	私		人		恋愛	人恋しさ	郷愁、孤独	
197003	希望	不明	私	あなた	あなた＝希望		若者・希望の旅立ち		悲愴感、放浪感	現在＋未来
197004	恋人	女		あなた			恋愛	恋愛賛歌	現在の永続を願う	現在
197005	竹田の子守唄	不明			この子		その他			
197006	出発の歌	第3者		おまえ			恋愛	別れと再出発	感傷を振り払って	未来

表3－1　データベースの一部

表３－２　データベースの一部

ID	題名	話者	人称１	人称２	人物	英数	ﾓﾁｰﾌ	恋段階	補足情報	時間方向
198331	Cat's Eye	男		you	we	83	恋愛	恋の始まり	妖しい魅力に惹かれる男？	現在
198332	グッドバイからはじめよう	男	僕	あなた			恋愛	別れの瞬間	女の心が男には不明、淡々	
198333	Good-Bye青春	男	俺	君			恋愛	別れの直後	夜明け、女に振られる	過去
198334	サマーサスピション	男	僕	君	I、you	25	恋愛	別れの予感	女が別の男に心変り、嫉妬	過去
198335	SWEET MEMORIES	女		あなた		4	恋愛	再会	再会と懐かしさ	過去
198336	時をかける少女	女	私	あなた			恋愛	恋愛賛歌		過去＋未来
198337	２２歳	女	私	あなた			恋愛	別れの予感	男に振り回され疲れた女	過去
198338	初恋	男	僕	君			恋愛	初な恋思い出す	学園での初恋、片思い	過去
198339	もしも明日が	女			愛する人		恋愛	恋愛賛歌		現在
198401	恋の予感	第３者		あなた			恋愛	届かぬ思い	乙女の純な恋を客観的に描	
198402	ジュリアに傷心	男	俺		俺たち、二人	35	恋愛	やり直し	やり直し呼びかけ	過去
198403	星空のディスタンス	男		君		13	恋愛	再生を願う		過去
198404	桃色吐息	女		あなた			恋愛	恋愛賛歌	エロティック	現在
198431	いっそセレナーデ	男		君			恋愛	後日思い出す	懐かしい遠い思い出	過去
198432	飾りじゃないのよ涙は	女	私				恋愛	人恋しさ	恋への憧れ、強がり	
198433	哀しくてジェラシー	男		おまえ		12	恋愛	届かぬ思い	女が多情、男は嫉妬	
198434	君のハートはマリンブルー	男	僕	君		40	恋愛	やり直し	裏切った女が戻る、男の寛	
198435	恋人達のペイヴメント	男	僕	君	二人	2	恋愛	やり直し	心離れた女が戻る	未来
198436	DANCE	第３者		おまえ	おまえ＝男	79	若者・苦悩悲哀放浪		苛立ち、自棄、閉塞感	
198437	涙のリクエスト	男	俺	おまえ	おまえ＝あの娘	4	恋愛	別れの直後	女に裏切られる、	過去
198438	ノーサイド	女	私	あなた	あなた＝彼		恋愛	後日思い出す	死別したラガーへの思慕	過去
198439	星屑のステージ	男	俺	おまえ		10	恋愛	後日思い出す	死別した彼女への思い	過去
198440	MIDNIGHT 2 CALL	男	僕	君			恋愛	再会	去った女が再接触、ずるい	過去
198441	メイン・テーマ	女		あなた			恋愛	恋の始まり	愛の発見、男の気持ちが不	未来
198442	モニカ	男		君	君＝モニカ、あいつ	46	恋愛	別れの直後	裏切られた男、夏の短い恋	過去
198501	ガラスのPALMTREE	男	僕	あなた		29	恋愛	やり直し	男が別れ話を撤回する	現在
198502	ff	男		おまえ			恋愛	愛する決意	愛の再確認、誓い	未来
198503	ベストセラー・サマー	男	俺		あの娘	32	恋愛	恋の始まり	妖しい魅力に惹かれる男	現在
198531	ORACION	男		君	二人	12	恋愛	恋愛賛歌	愛の始まり賛歌	未来
198532	翼の折れたエンジェル	女	あたし		あいつ	12	恋愛	別れの予感	自分の心が離れる	過去
198533	フレンズ	男		君	あの瞳		恋愛	初な恋思い出す	子供の頃の淡い恋心	過去
198534	フレンド	男	僕	君		32	恋愛	別れと見送り	女の生き方尊敬しつつ見守	過去
198535	夢のつづき	不明		あなた	二人		恋愛	後日思い出す	思い出を大切にする	過去
198601	１ダースの言い訳	男	僕	君			恋愛	日常的愛情風景	ケンカ、女に負ける男	現在
198602	BAN BAN BAN	男	俺	君		92	恋愛	後日思い出す	刹那的出会いと別れ	過去
198603	ラズベリー・ドリーム	女				82	恋愛	人恋しさ	自分をsexyに磨き上げたい	
198631	シーズン・イン・ザ・サン	男	俺	君		65	恋愛	恋の始まり	妖しい魅力に惹かれる男	現在
198632	Song for U.S.A.	男	俺達	君		66	若者・悲壮決別の旅立		10代との惜別	過去
198633	時の流れに	不明		あなた			恋愛	やり直し	過去と決別、希望・自由な	未来
198634	My Revolution	男		君		34	若者・希望の旅立ち		過去と決別、夢を追う、学	未来
198701	駅	女	私		あの人、彼		恋愛	再会	各々家庭を持つ、再会時の	過去
198702	輝きながら	男		君		8	恋愛	別れと見送り	少女の輝く旅立ち、	過去＋未来
198703	Summer Dream	男		君	二人	6	恋愛	恋愛賛歌	渚、砂	現在
198704	ろくなもんじゃねえ	男	俺		あいつ		恋愛	別れの直後	苦渋、悔しさ、悲しさ	過去
198731	夢をあきらめないで	女		あなた			恋愛	別れと見送り	夢追う男を見送る、身を引	未来
198732	ロンリー・チャップリン	女	私	あなた		14	恋愛	別れと見送り	夢追う男を見送る、自分の	未来
198801	クリスマス・イブ	男		君		24	恋愛	別れの予感	女を待つ男、女に振られる	
198802	SEVEN DAYS WAR	両者	僕達			36	若者・多感な青春		大人の権威との戦い	未来

こうした状況と呼応して、歌詞に友人や肉親など恋愛対象以外の人物が登場する曲の比率も急減している。「若者モノ」に見られるような人間的な広がりがなく、「恋愛モノ」では、恋愛フェーズがハッピィな状況では、僕と君、わたしとあなた、など二人だけの世界が歌われ、二人の時空間距離が開いた状況では、あいつ・あの娘・あの人などの表現で相手を参照し、他の人物は眼中にないわけである。

「恋愛モノ」が大勢を占める状況は歌詞の時間的方向性にも反映されていて、第1期には「若者」モノが支える「未来指向」の曲が「過去指向」を上回っていたが、その後「恋愛」モノの歌う「過去指向」が「未来指向」を圧倒する。しかし、面白いことに第5期には再び「未来指向」が「過去指向」を上回っているが、これは後述するように恋愛モノのうちで「未来指向」が増加したことによると思われる。ただし「過去指向」とは、歌詞が過去だけまたは現在を参照しつつも主に過去に向かうもの、「未来指向」とは、過去や現在を参照するものも含むが主に未来に向かうものである。

時期	総数	英語歌詞入り	恋相手以外の人物登場	TV・映画タイアップ	若者モノ	恋愛モノ	過去指向	未来指向
1965-1969	42	0	16(38.1)	1(2.4)	11(26.2)	18(42.9)	11(26.2)	15(35.7)
1970-1974	82	2(2.4)	6(7.3)	3(3.7)	11(13.4)	54(65.9)	33(40.2)	13(15.9)
1975-1979	77	7(9.1)	11(14.3)	6(7.8)	7(9.1)	60(77.9)	25(32.5)	16(20.8)
1980-1984	64	26(21.7)	2(3.1)	12(18.8)	6(9.4)	56(87.5)	25(39.1)	12(18.8)
1985-1989	37	22(59.5)	0	16(43.2)	4(10.8)	32(86.5)	11(29.7)	15(40.5)

表4　ニューミュージック全体の傾向：( )内は総数に対する%を示す

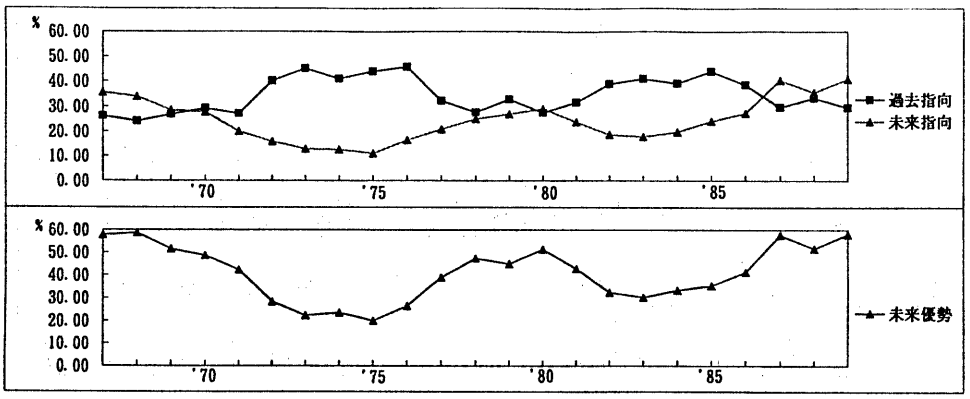

図1　ニューミュージックの時間的方向性（移動平均）

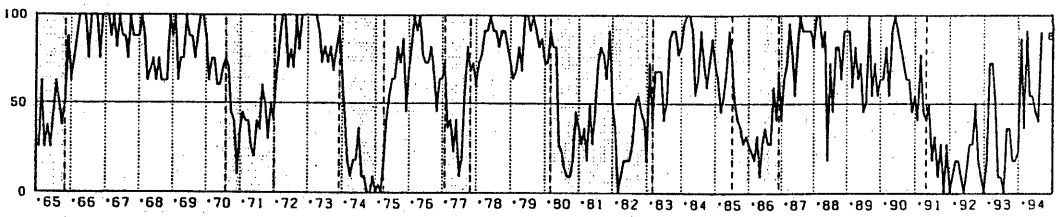

図2　景気動向の一致指数（出典：経済企画庁編『グラフが語る日米の景気動向』平成6年11月号）

この時間的方向性について、もう少し詳しく見てみよう。図１の上段に示すのは、５年間の期間について「過去指向」と「未来指向」の曲数を集計し、その期間の総曲数で除したものを中央の年の値として割り当てるという、単純な移動平均法によって、1969年から1989年の時間的方向性の変化を見たものである。図１下段は、「未来指向」÷（「未来指向」＋「過去指向」）　の式によって求めた「未来指向の優勢度」の移動平均である。この折れ線グラフを見ると、未来指向が優勢な時期は1970年頃まで、および1985年以降の時期であることが示され、前述のような５つの時間区切りがほぼ妥当であることを裏付けていると思われる。

こうした変化の背景を探るヒントを求めて、経済の動向を調べてみよう。図２には、水平の時間軸を図１と対応付けて描いた景気動向指数を示す。景気動向指数は、景気に敏感な経済指標を選定しそれらの変化方向を合成することにより得られるが、一致指数が50％を越えている時には、上昇している指標が下落している指標より多いことから景気上昇曲面にあると判断される。図２のハッチングを施した部分が不景気の期間とされる。振り返ってみれば、1970年7月までの「いざなぎ景気」の過熱を抑えるための金融引き締めによって生じた1970年後半から1971年いっぱいの不況、その間の1971年8月のドル・ショック、1973年10月の第一次石油ショックが引き起こした1974年から1977年にかけての断続的な不況、1978年12月の第二次石油ショックに対応する金融引き締めから生じた1980年から３年間にわたる戦後最大の不況、1985年9月のプラザ合意による円高不況、が思い起こされる[3)]。

図２と図１の未来優勢の変化とを突き合わせてみると、不景気の時期と未来指向の優勢度が低下する時期とがほぼ重なるように見える。このことだけで、不景気の時期には未来指向が弱まる、と断言することは現時点では不可能であるが、今後の分析次第では、歌詞の時間的方向性と経済動向との相関について知見が得られる可能性はあるだろう。

４．恋愛モノの傾向

ニューミュージックの主なモチーフが恋愛であるので、以下では恋愛モノに注目してみよう。表５には、恋愛フェーズ、時間的方向性、話者の感情の各分類項について主な値の変化を示した。恋愛フェーズの点からは、恋愛賛歌・日常的愛情風景などハッピィな曲は第１期から時代が下るにつれ漸減しているのに対し、別れの瞬間や別れの直後を描いたアンハッピィな曲は第２、３、４期に多い。また、この３つの時期には「過去指向」が「未来指向」を上回っているし、話者の感情の点から見ても「未練・淋

時期	総数	恋愛フェーズ			時間的方向性		話者の感情	
		恋愛賛歌・日常的愛情風景	別れの瞬間別れの直後	後日思い出す	過去指向	未来指向	未練・淋しさ・悲しさ	懐かしさ
1965-1969	18	6(33.3)	2(11.1)	2(11.1)	8(44.4)	3(16.7)	3(16.7)	6(33.3)
1970-1974	54	16(29.6)	5(9.3)	13(24.1)	25(46.3)	6(11.1)	18(33.3)	6(11.1)
1975-1979	60	13(21.7)	20(33.3)	8(13.3)	19(31.7)	10(16.7)	20(33.3)	5(8.3)
1980-1984	56	7(12.5)	10(17.9)	6(10.7)	25(44.6)	9(16.1)	14(25.0)	5(8.9)
1985-1989	32	6(18.8)	1(3.1)	2(6.3)	10(31.3)	13(40.6)	3(9.4)	4(12.5)

表５　「恋愛モノ」の傾向：( )内は総数に対する％を示す

しさ・悲しさ」が強い。ところが第５期には別れそのものを歌う曲が減少し、話者の感情も「懐かしさ」が主流となり、未来指向が過去指向を上回るという変化を示す。図３には、図１と同じ方法で求めた「恋愛モノ」の時間的方向性の時間変化を示す。

表５を見ると、「恋愛モノ」の時間変化は、第１期は過去指向が多いものの悲しみの少ない時期、第２、３、４期は過去指向が極めて強くまた悲嘆の感情が激しい時期、第５期は感情がマイルドになるとともに未来指向の大きい時期、の３つの傾向に大別できそうである。あるいは、第２、３、４期は別れの表現がステレオ・タイプであったが、第５期には恋愛の機微を描く曲が増えた、と言えるのかも知れない。例えば、別れていく相手の生き方を認めて送り出す、という心に余裕のある別れを描く「別れと見送り」フェーズの歌が、第５期には多く見られる（表３－２参照）。また、表６に示すように、第４、５期には、男が振られるパターンが増加している。このように、第４期以降には、恋愛の風景が多様化していると言えそうである。

これらが、経済動向、社会情勢や風俗、ミュージシャンや周辺スタッフの世代交代、などの現象とどのように関連しているのかも興味深い考察課題である。例えば、1981年5月開始『俺たちひょうきん族』、1982年10月開始『笑っていいとも』、1985年4月開始『タケシの元気が出るテレビ』など一連の元気印のテレビ番組、1988年7－9月放映『抱きしめたい』に始まるトレンディードラマが描く恋愛風景、1989年2月開始『いかすバンド天国』がきっかけと言われる若いミュージシャンの台頭、などは、ニューミュージックの描く世界に大きな影響を与えていることが予想される。

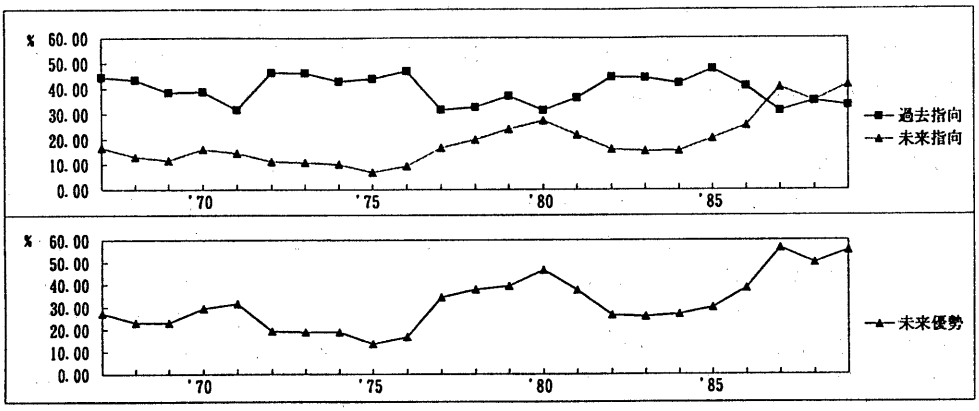

図３　「恋愛モノ」の時間的方向性（移動平均）

時期	総数	男が振られる・裏切られる	女が振られる・裏切られる
1965-1969	18	0	0
1970-1974	54	1	1
1975-1979	60	1	3
1980-1984	56	11	5
1985-1989	32	4	0

表６　「恋愛モノ」における振られる男女

5．おわりに

本稿で試みた分析は、データソースが限られたものである上に、恋愛経験が豊富とは言い難い男である筆者の独断によるモチーフ分析に基づいており、歌に描かれた微妙な恋心を捉えきってはいまい。また、世相・風俗や経済現象との相関についての分析も不十分である。今後は、悉皆的なデータ収集、海外ポップスからの影響への目配り、若い女性の目によるモチーフの見直し、ミュージシャンの世代の分析、ミュージシャン同士の影響、さらに、メロディーのコード進行の分析などを含めて考察を深め、別の機会に報告したい。

注

(1)久保正敏「歌謡曲の歌詞に見る旅　ー昭和の歌謡史私論ー」『国立民族学博物館研究報告』15巻4号、pp. 943-986　1991。

(2)『オリコン年鑑　1984』pp. 474-475。

(3)竹内宏『昭和経済史』筑摩書房　1988。